

建設業の意気みせませす

父の仕事に憧れ・ブルドーザーのすげえ技

リニア建設など活躍の場があっても、3Kイメージで人手不足……。そんな建設業界に危機感を抱いた名古屋市の建設技術コンサルタントが、現場のちょっとしたいい話を本にまとめた。学生や業界の若手に、手にとってほしいと願う。

コンサル男性が出版

「建設業で本当にあった心温まる物語」。大手ゼネコン社員だった降旗達生さん(53)。昨年、東海3県を中心に建設、土木会社から話題を募り、約500本から61本を選んで収録し

た。第2巻を4月に出版。別に募集した約400本から68本を載せた。

「家族に誇る建設の仕事」「建設職人のすげえ技を見た」といった章立てだ。父が運転するミキサー車に乗ったことがきっかけで同じ道を進んだ息子の話や、仲間の気遣いで息子の運動会に駆け付けた現場監督の話などが並ぶ。

「すげえ技」の達人も登場



降旗達生さん

する。直径20センチで高速回転する巨大なタービンの振動をたった1カ所の重りで抑える職人。センチ単位で地面を削るブルドーザー使い――。

降旗さん自身の思い出にも触れた。30歳のころ静岡市でのトンネル工事の測量を担当。半年かけ暗闇を600メートル掘り進んだ。ダイナマイトが爆発し、貫通の風が吹き抜けると、仲間と抱き合い、たる酒をヘルメットですくって飲んだ。

降旗さんは、建設業界に



「建設業で本当にあった心温まる物語」

若者が来ず、離職者が多いことに危機感を抱く。東海地方はトヨタ自動車を中心に製造業の人气が高く、建設業に目が向きにくい事情もあるとみている。「病気になる医者に通うように、災害や道路の維持には地域の建設業者が必要」。自身の体験をふまえ、「きつさを越えたところにある喜びをこの本で感じてほしい」と話す。

「バックフォー」は掘削機械、「床付け」は地盤をならすといった具合に、言葉を補った。1冊税込み540円。大学や高校にはエピソードを厳選した冊子を無料で配っている。降旗さんのHP (<http://www.hata-web.com/syoseki/>)で試し読みもできる。